

<b>2005年</b>	
4月19日	4月18日から開始したコンクラーベの2日目に第265代教皇に選出される。
4月21日	教皇庁国務省長官のアンジェロ・ソダーノ枢機卿を国務省長官として再任。4月30日に同枢機卿の首席枢機卿選出を承認。
4月24日	サンピエトロ広場にて就任ミサ。
5月13日	新教皇庁教理省長官としてウィリアム・ジョゼフ・レヴェイダ大司教を任命。教皇ヨハネ・パウロ二世の列聖手続き開始を発表。
6月28日	『カトリック教会のカテキズム要約』( <i>Catechismo della Chiesa Cattolica Compendio</i> )を公布(同書編纂特別委員会委員長はヨゼフ・ラッツィンガー枢機卿)。邦訳、日本カトリック司教協議会常任司教委員会監訳、カトリック中央協議会、2010年(出版案内へ: <a href="http://www.cbj.catholic.jp/publish/cate/compendium/compendium.html">http://www.cbj.catholic.jp/publish/cate/compendium/compendium.html</a> )
8月18日～21日	ドイツ司牧訪問、WYD(ワールドユースデー)ケルン大会に参加。8月19日ケルンのシナゴグを訪問。
9月16日	『神の啓示に関する教義憲章』発布40周年国際会議であいさつ。
9月24日	チュービンゲン大学のハンス・キュンク教授と会見。
10月2日～23日	世界代表司教会議(シノドス)第11回通常総会(バチカン)を主宰。テーマは「教会生活と宣教の源泉と頂点である聖体」。
10月11日	WYDケルン大会講話集『神の革命』( <i>La Rivoluzione di Dio</i> )を出版。
10月15日	サンピエトロ広場で初聖体を受けた子どもたちとの集会を司式。
10月23日	サンピエトロ広場で世界代表司教会議(シノドス)第11回通常総会閉会ならびに「聖体年」閉年ミサを司式。「聖体年」は教皇ヨハネ・パウロ二世の呼びかけにより2004年10月から行われた。
12月8日	第二バチカン公会議閉会40周年記念ミサを司式。
12月13日～16日	国際カトリック-正教会神学的対話のための合同委員会開催。2000年以来中断していた東方正教会との神学対話が5年ぶりに再開。委員会参加者は12月15日に教皇と謁見。
12月22日	教皇庁に対する降誕祭のあいさつ。このあいさつの中で第二バチカン公会議の正しい解釈について解説した。
<b>2006年</b>	
1月25日	最初の回勅『神は愛』を発布。
3月15日	水曜一般謁見で使徒に関する連続講話を開始。
3月24日	教皇として初めて15名の新枢機卿を叙任。
4月3日	教皇ヨハネ・パウロ二世最初の命日祭ミサを司式。
5月25日～28日	ポーランド司牧訪問。5月28日、アウシュヴィッツ=ビルケナウ強制収容所を訪問。
6月3日	サンピエトロ広場で、新しい運動団体の代表者40万人と聖霊降臨の祭日前晩の祈りの集いを司式。
6月22日	教皇庁国務省長官のアンジェロ・ソダーノ枢機卿の退任を受諾。9月15日にタルチジオ・ベルトーネ枢機卿を新教皇庁国務省長官に任命。ソダーノ枢機卿は1991年に教皇庁国務省長官に任命され、以来15年にわたって同職を務めた。
7月8日～9日	スペイン司牧訪問。第5回世界家庭大会に参加。
7月11日	教皇庁広報部のホアキン・ナバロ・バルス報道官の退任願を受諾、新しい報道官としてフェデリコ・ロンバルディ神父(イエズス会)を任命。ホアキン・ナバロ・バルス氏は1984年に教皇ヨハネ・パウロ二世により教皇庁広報部報道官に任命され、以来22年間同職を務めた。
7月20日	中東のための祈りと悔い改めの日と呼びかけ。
9月9日～14日	ドイツ司牧訪問。9月12日、レーゲンスブルク大学で講演「信仰・理性・大学——回顧と考察」。
9月14日	フェデリコ・ロンバルディ教皇庁広報部報道官が教皇のレーゲンスブルク大学での講演に関する声明を発表。
9月16日	タルチジオ・ベルトーネ教皇庁国務省長官が教皇のレーゲンスブルク大学での講演に関する声明を発表。
9月17日	教皇が「お告げの祈り」の中でレーゲンスブルク大学での講演に対するイスラームの人々からの反応について自ら遺憾の意を表明。
9月25日	イスラーム諸国大使とイタリア国内のイスラーム団体代表者と会見。
11月21日～26日	ローワン・ウィリアムズ・カンタベリー大主教がローマ訪問。聖公会-ローマ・カトリック教会国際委員会(ARCIC)開始40周年を記念。
11月28日～12月1日	トルコ司牧訪問。11月30日ブルー・モスク訪問。
<b>2007年</b>	
1月19日～20日	中国大陸におけるカトリック教会の状況を検討するための会議を開催
1月25日	ベトナム社会主義共和国のグエン・タン・ズン首相と会見。
3月7日	水曜一般謁見で教父に関する連続講話を開始。
3月13日	シノドス後の使徒的勸告『愛の秘跡』を発布。
4月4日	エドゥアルド・マルティネス・ソマロ枢機卿から提出されたローマ教会のカメルレンゴ(教皇空位期間管理局局長)の任務の退任願を受諾、同職の後継者として教皇庁国務省長官のタルチジオ・ベルトーネ枢機卿を任命。
4月13日	『ナザレのイエス』出版。
4月15日	80歳祝賀ミサを司式。4月16日に80歳の誕生日を迎えた。
5月9日～14日	ブラジル司牧訪問。第5回ラテンアメリカ・カリブ司教協議会総会に参加。
6月1日	ペトロ岐部と187殉教者の列福が教皇の裁可で正式に決定。

6月26日	自発教令『ローマ教皇選挙の規定の一部改正』を發布。教皇ヨハネ・パウロ二世自発教令『使徒座空位と教皇選挙について』75の規定を改正し、決選投票においても教皇選挙には投票総数の3分の2の得票が必要であると定めた。
6月28日	「パウロ年」(2008年6月28日～2009年6月29日)の開催を発表。
6月30日	『中華人民共和国の司教、司祭、奉献生活者、信徒への手紙(2007年5月27日付)』を発表。
7月7日	自発教令『スモールム・ポンティフィクム——1970年の改革以前のローマ典礼の使用について』を發布。
9月7日～9日	オーストリア司牧訪問。
10月13日	国際カトリック正教会神学的対話のための合同委員会声明「教会の秘跡的性格がもたらす教会論的・教会法的帰結——教会の交わり、公会議制、権威」発表(ラヴェンナ)。東方教会が初めて教会の普遍性に言及。
11月24日	23名の枢機卿を叙任。
11月30日	二番目の回勅『希望による救い』を發布。
12月10日～15日	日本司教団の教皇庁定期訪問(アド・リミナ訪問)。12月15日に全員が教皇と謁見。
12月14日	教理省『教理に関する覚書——福音宣教のいくつかの側面について』発表。教皇自ら12月19日の一般謁見と12月23日の「お告げの祈り」において本文書を解説。
<b>2008年</b>	
3月10日～12日	第1回中国のカトリック教会の生活のための会議開催(バチカン)。
4月15日～21日	アメリカ合衆国司牧訪問。4月16日、ホワイトハウスで81歳の誕生日を祝う。4月17日、ワシントンDCの教皇庁大使館内で、司祭による性的虐待を受けた被害者と会見。4月18日、歴代教皇として4回目の国連総会での演説を行う。同日、ニューヨークのシナゴグを訪問。米国のシナゴグ訪問は歴代教皇として初めて。4月20日、ニューヨークのグラウンド・ゼロ(世界貿易センタービル跡地)で9・11同時多発テロ犠牲者のために祈りをささげる。
5月9日	聖座(バチカン)ウェブサイトが、イタリア語、ドイツ語、フランス語、英語、スペイン語、ポルトガル語に加えてラテン語版を開設。
5月16日	『中華人民共和国の司教、司祭、奉献生活者、信徒への手紙』(2007年5月27日)の中で提案した、5月24日の「中国の教会のために祈る日」のために、教皇が作った「余山(シェシャン)の聖母への祈り」を発表。
6月28日	サン・パオロ・フオリ・レ・ムーラ大聖堂における聖ペトロ・聖パウロ使徒の祭日の前晩の祈りを司式、「パウロ年」を開幕。
7月2日	「パウロ年」にちなんで、水曜一般謁見の中で聖パウロに関する連続講話を開始(連続講話は2009年2月4日に終了)。
7月12日～21日	オーストラリア司牧訪問。WYDシドニー大会に参加。
9月12日～15日	フランス司牧訪問
10月5日～26日	世界代表司教会議(シノドス)第12回通常総会(バチカン)。テーマは「教会生活と宣教における神のこぼれ」。
10月22日	『ヨゼフ・ラッツィンガー全集』(ドイツ語版、全16巻)、ヘルダー社より刊行開始。第1回配本は第11巻『典礼の神学』。
11月4日～6日	第1回カトリックムスリム・フォーラムがバチカンで開催される。テーマは「神への愛と隣人への愛」。
11月24日	ペトロ岐部と187殉教者列福式(長崎市・ビッグNスタジアム)。司式は前教皇庁列聖省長官ジョゼ・サライバ・マルティンス枢機卿。
<b>2009年</b>	
1月23日	バチカン、YouTube配信を開始。
1月24日	司教省教令により、1998年に破門された聖ピウス十世司祭兄弟会の司教4名の破門を解除。この直後、破門を解除された司教の一人がホロコーストを否定する発言を行っていたことが報道される。
1月28日	一般謁見においてユダヤ人大量殺戮を忘却・否定・過小評価すべきでないことをあらためて強調。
3月12日	「ルフェーヴル大司教によって叙階された4名の司教の破門の解除に関する全カトリック教会の司教への手紙」を発表。
3月16日	教皇庁聖職者省総会参加者への謁見において、アルスの主任司祭、聖ヨハネ・マリア・ビアンネ(1786-1859年)の没後150年を記念して、2009年6月19日から2010年6月11日まで特別年の「司祭年」を開催することを発表。
3月17日～23日	アフリカ(カメルーンとアンゴラ)司牧訪問。第2回アフリカ特別シノドス(2009年10月)の「討議要綱」を発表。
3月19日	聖座ウェブサイトが、イタリア語、ドイツ語、フランス語、英語、スペイン語、ポルトガル語、ラテン語に加えて中国語版を開設。
3月30日～4月1日	第2回中国のカトリック教会の生活のための会議開催(バチカン)
5月8日～15日	聖地(ヨルダン・ハシェミット王国、イスラエル国、パレスチナ自治区)司牧訪問。教皇の聖地巡礼はパウロ六世(1964年1月4日～6日)、ヨハネ・パウロ二世(2000年3月20日～26日)に続いて3回目。5月12日、エルサレムのイスラーム教の聖地「岩のドーム」とユダヤ教の聖地の「嘆きの壁(西の壁)」を訪問。
6月15日	レナート・ブッツォネッティ医師に代わり、パトリツィオ・ポリスカ医師(55歳)をバチカン市国政府保健衛生管理部副所長に任命。同医師が以後、教皇の主治医を務める。専門は心臓病、麻酔、蘇生。
6月19日	サンピエトロ大聖堂でイエスのみ心の祭日の祭日の晩の祈りを司式、「司祭年」を開幕
6月26日	サン・パオロ・フオリ・レ・ムーラ大聖堂で聖ペトロ・聖パウロ使徒の祭日の前晩の祈りを司式、「パウロ年」を閉幕。
7月7日	教皇として3番目の回勅であり、最初の社会回勅の『真理に根ざした愛』を發布。同日、麻生太郎首相と会見。
7月8日	自発教令『エクレジエ・ウニターテム(Ecclesiae unitatem)』(2009年7月2日付)を發布。聖ピウス十世司祭兄弟会との和解のために1988年に設置されたエクレジア・デイ委員会を教理省のもとに置くこと、委員長を教理省長官とすること、同委員会の職務は聖ピウス十世司祭兄弟会と関連する教理的問題の検討であることを定めた。
7月10日	バラク・オバマ米大統領と初めて会見。

7月16日	夏季休暇で滞在していたレ・コーンブの山荘内で偶然転倒して右手首を骨折、翌17日アオスタのウンベルト・パリーニ病院で手術を受け、ギプス包帯による固定を行う。ギプス包帯は8月21日に除去。
9月26日～28日	チェコ共和国司牧訪問。
10月4日～25日	第2回アフリカ特別シノドス(バチカン)。
11月9日	使徒憲章『アングリカノールム・チェティブス(Anglicanorum coetibus)』(2009年11月4日付)発布。団体としてカトリック教会との完全な交わりを回復することを望む聖公会の信者を受け入れるための規定を定めた。聖公会の信者が聖公会の典礼と霊的伝統を維持したままでカトリック教会に加わることを可能にする。
11月28日	聖公会—ローマ・カトリック教会国際委員会(ARCIC)第3期対話開始発表。
12月3日	教皇、ロシアのドミトリー・メドヴェージェフ大統領と初めて会見。聖座とロシアの間に正式な外交関係を樹立することに合意。2010年1月11日現在、聖座は178か国と外交関係を有する。このほかに聖座はEU(欧州連合)、マルタ共和国と外交関係を持ち、パレスチナ解放機構(PLO)とも特別な性格の外交関係をもっている。
12月11日	教皇、ベトナム社会主義共和国のグエン・ミン・チュット大統領と初めて会見。
12月19日	教皇ピオ十二世とヨハネ・パウロ二世を尊者とすることを宣言。
12月24日	教皇、サンピエトロ大聖堂で司式した主の降誕の夜半のミサの入堂行列の際、会衆席から飛び出した女性に飛びかかれて転倒。教皇に怪我はなかったが、一緒に行列を行っていたロジェ・エチエガレイ枢機卿(87歳)が大腿骨を骨折。
<b>2010年</b>	
1月17日	ローマのシナゴグ訪問。同シナゴグ訪問は教皇ヨハネ・パウロ二世(1986年)以来2回目。
2月15日～16日	聖職者による未成年者性的虐待をめぐり教皇招集によるアイルランド司教団の会議開催(バチカン)
3月20日	『アイルランドのカトリック信者への手紙』を発表。アイルランド教会において聖職者から虐待を受けた犠牲者への連帯を表明。
3月22日～24日	第3回中国のカトリック教会の生活のための会議開催(バチカン)。
4月17日～18日	マルタ共和国司牧訪問。4月18日、マルタの教皇庁大使館内で、聖職者による性的虐待の被害者と会見。
4月19日	教皇在位5周年。
5月11日～14日	ポルトガル司牧訪問。5月13日、ファティマで、ファティマの牧童ジャシント、フランシスコの列福10周年を記念。
6月4日～6日	キプロス司牧訪問。6月6日、中東特別シノドス(2010年10月)の「討議要綱」を発表。
6月9日～11日	国際司祭大会。6月10日、サンピエトロ広場で、「司祭年」閉年式前晩の祈りにおいて司祭との対話集会を司式。6月11日、サンピエトロ広場で「司祭年」閉年式ミサを司式。ともに15,000人の司祭が参加。
6月23日～24日	教皇庁国務省による聖座とベトナム社会主義共和国の国交回復に向けた第2回合同作業会議開催。6月26日、教皇庁国務省は、教皇が近くベトナムに対する非居住の聖座代表を任命することを発表。
6月25日	教皇庁国務省が、6月24日にベルギー警察が聖職者による児童性的虐待の捜査のためにメヘレン・ブリュッセル大司教館で行った家宅捜索に関する非難声明発表。6月27日には教皇自らベルギー司教団に対して連帯の手紙を送る。
6月28日	教皇、ウィーン大司教・オーストリア司教協議会会長のクリストフ・シェンボルン枢機卿と会見。シェンボルン枢機卿がアンジェロ・ソダーノ枢機卿が国務省長官当時、聖職者による未成年者の性的虐待に関する調査を止めたことと批判したことに関して、「枢機卿を批判する権限をもつのは教皇だけである」ことを確認。
6月28日	サン・パオロ・フオリ・レ・ムーラ大聖堂で司式した聖ペトロ・聖パウロ使徒の祭日の前晩の祈りの講話の中で、すでにキリスト教の宣教が行われた国々での新たな福音宣教を推進するために新たな教皇庁評議会「新福音化推進評議会」を設置することを発表。新しい評議会は教皇庁の12番目の評議会となる。新評議会の設置は、教皇ヨハネ・パウロ二世が現在の保健従事者評議会の前身である教皇庁医療使徒職委員会を1985年に設置して以来。6月30日、「新福音化推進評議会」議長として前教皇庁生命アカデミー会長のサルヴァトーレ・フィジケッラ大司教を任命。
7月5日	バチカン市国政庁保健衛生管理部副所長のパトリツィオ・ポリスカ医師を同所長に任命。
9月16日～19日	英国司牧訪問。教皇としての初めての英国公式訪問。4月19日、ジョン・ヘンリー・ニューマン枢機卿を列福。教皇として最初の列福式。ベネディクト十六世はヨハネ・パウロ二世と異なり、列福式は自ら行っていない。
10月10日～24日	中東特別シノドス開催(バチカン)。10月24日のシノドス閉会ミサで第13回世界代表司教会議(シノドス)通常総会を2012年に「キリスト教信仰を伝えるための新しい福音宣教」をテーマとして開催することを発表。
10月12日	自発教令『ウビクムクエ・エト・センペル』(2010年9月21日付)発表。教皇庁新福音化推進評議会の設置を正式に決定。
10月18日	「司祭年」閉幕にあたって、『神学生への手紙』発表。
11月6日～7日	スペイン司牧訪問。サンティアゴ・デ・コンポステーラで「サンティアゴ・デ・コンポステーラ年」記念ミサを司式。バルセロナ、サグラダ・ファミリア教会および祭壇の献堂ミサを司式。
11月11日	シノドス後の使徒的勧告『神のこば(Verbum Domini)』発表(発布日付は2010年9月30日)。教皇として2番目の使徒的勧告。「教会生活と宣教における神のこば」をテーマとして2008年に開催された第12回世界代表司教会議(シノドス)通常総会の提言を受けた文書。
11月20日	24名の新しい枢機卿を叙任。ベネディクト十六世による枢機卿の叙任は2006年3月24日、2007年11月24日に続いてこれが3回目。枢機卿総数203名、うち教皇選挙権を有する80歳未満の枢機卿は121名となる。
11月23日	『世の光—教皇、教会、時のしるし(教皇とペーター・ジーヴァルトの対話)』刊行。本書の元となった教皇とジャーナリストのP・ジーヴァルトとの対話は7月26日から31日までカステル・ガンドルフォ教皇公邸で行われた。
11月26日	神学研究奨励のための「ヨゼフ・ラッツィンガー／ベネディクト十六世バチカン基金」創立発表。基金の一部は教皇ベネディクト十六世自らが聖座に寄付した著作権使用料に基づくも
11月27日	サンピエトロ大聖堂で待降節第一主日前晩の祈りの中で「すべての出生前のいのちのための祈り」を司式。

12月30日	自発教令(2010年12月30日付)により、教皇庁内にマネーロンダリング(資金洗浄)とテロリズムへの資金供与防止の国際的取り組みにバチカン市国が協力するため、バチカン市国および教皇庁の財務情報を監視する独立機関として聖座財務情報監視局(Autorità di Informazione Finanziaria (AIF))を2011年4月1日に発足させることを発表。2011年1月19日付で聖座財務情報監視局局長に聖座財務管理局局長のアッティリオ・ニコラ枢機卿(Attilio Nicora)を任命。ニコラ枢機卿は聖座財務管理局局長を兼任する。
<b>2011年</b>	
1月1日	正午の「お告げの祈り」の前に述べたことばで、ヨハネ・パウロ二世が1986年に世界平和祈禱集会をアッシジで開催した25周年にあたって、2011年10月にアッシジで世界の宗教者とともに祈禱集会を行うことを発表。
1月13日	ベトナムに対する非居住の聖座代表として前インドネシアにおける教皇大使のレオポルド・ジレリ師(Leopoldo Girelli)を任命。ジレリ師は同日付でシンガポールにおける教皇大使、マレーシア、ブルネイにおける教皇使節に任命。
1月14日	教皇ヨハネ・パウロ二世(カロル・ヴォイティワ)を5月1日に列福することを発表。
1月15日	教皇省教理省が使徒憲章『アングリカノールム・チェティブス』に基づく最初の聖公会団体の「属人裁判区(personal ordinariate)」である「ウォルシンガムの聖母属人裁判区(Personal Ordinariate of Our lady of Walsingham)」をイングランド・ウェールズ地域に同日付で設立することを発表。同日、教皇ベネディクト十六世はウォルシンガムの聖母属人裁判区の裁判権者としてカイト・ニューマン(Keith Newman 58歳)師を任命。
3月10日	ヨゼフ・ラッツィンガー／ベネディクト十六世『ナザレのイエス』第2部刊行。第2部は「エルサレム入城から復活まで」を扱う。
3月11日	日本で同日午後2時46分に起きたマグニチュード9.0の東日本大震災被災者に対して見舞いのことばを送る。
3月12日	教皇、東日本大震災被災者支援のために、教皇庁開発援助促進評議会を通して日本カトリック司教協議会に15万ドルを寄付。
4月11日～13日	第4回中国のカトリック教会の生活のための会議開催(バチカン)。会議後、4月14日に、中国のカトリック教会のための委員会から中国のカトリック信者に向けたメッセージ(4月13日付)が発表される。
4月13日	2006年3月15日から開始した、使徒時代から現代に至る教父・神学者・思想家・神秘家・教会博士に関する一般謁見における連続講話を終了。
4月22日	聖金曜日にあたり、RAI(イタリア放送協会)がテレビ番組「A sua imagine」で教皇へのインタビュー「イエスについて」を放映。番組の中で7つの質問に答える。ローマ教皇がこのような形でテレビ番組の中で一般視聴者の質問に答えるのは初めて。番組は放送の数日前にバチカン教皇公邸で収録された。
5月1日	教皇ヨハネ・パウロ二世列福式ミサ(サンピエトロ広場)を司式。ローマ教皇が前任の教皇を列福するのは史上初。
5月4日	水曜一般謁見で「祈り」についての連続講話を開始。
5月13日～17日	東日本大震災被災者との連帯を表明するため、教皇特使として教皇庁開発援助促進評議会議長のロベール・サラ枢機卿を日本に派遣。サラ枢機卿はいわき市、仙台市、松島町の被災地を視察。15日には仙台教区カテドラル元寺小路教会でミサをささげ、16日には松島町長とともに観光船から被災者に祈りをささげた。
5月13日	教皇庁教理省に属するエクレジア・デイ委員会が教書『ユニヴェルサエ・エクレジアエ』(Universae ecclesiae 2011年4月30日付)を発表。2007年7月に発布された教皇ベネディクト十六世自発教令『スモールム・ポンテフィクム』の適用について解説。
5月16日	教皇庁教理省長官のジョセフ・レヴェイダ長官名で聖職者による未成年者性的虐待事件対応のための司教協議会によるガイドラインについて——司教協議会に宛てて(2011年5月3日付)を発表。各国司教協議会に2012年5月までに聖職者による未成年者性的虐待事件に対応するガイドライン作成と提出を求める。
5月21日	ローマ時間午後1時11分から約20分間、国際宇宙ステーションと対話。対話には国際宇宙ステーションに滞在中の宇宙飛行士12名全員が参加した。ローマ教皇が宇宙滞在中の宇宙飛行士と通話を行うのは初めて。
6月4日～5日	クオアチア司牧訪問。
6月14日	2010年に創立された「ヨゼフ・ラッツィンガー／ベネディクト十六世バチカン基金」による第1回ラッツィンガー賞をマンリオ・シモネッティ(Manlio Simonetti 85歳)、オレガリオ・ゴンザレス・デ・カルデダル(Olegario González de Cardedal 76歳)、マクシミリアン・ハイム(Maximilian Heim 50歳)の3氏に授与することを発表。授賞式は6月30日に開催。
6月19日	サンマリノ司牧訪問。
6月28日	聖座が聖ペトロ・聖パウロ使徒の祭日前晩に、新しいマルチメディア・ポータルサイトnews.va ( <a href="http://www.news.va/en">http://www.news.va/en</a> )を開設。ローマ教皇として初めて次のツイッターの書き込みを行う。“Dear Friends, I just launched NEWS.VA. Praised be our Lord Jesus Christ! With my prayers and blessings, Benedict XVI.”
6月29日	司祭叙階60周年を祝う。
7月16日	聖座が、7月14日に中国・広東省汕頭(スワン)で教皇の任命なしに行われたヨセフ黄炳章(ファン・ピンザン)神父の司祭叙階に関する声明を発表。叙階は不法であり、教会法1382条に基づき判事的破門制裁を受けることを確認。
7月18日	カステル・ガンドルフォ教皇公邸でナジブ・ラザク・マレーシア首相と会見、マレーシアと聖座の間で国交を樹立することに合意。
7月27日	聖座とマレーシアが正式に国交を樹立し、双方に大使館を設置することを発表。聖座と外交関係を締結した国はこれで179国となる。
8月16日～21日	第26回WYD(ワールドユースデー)マドリッド大会参加のため、スペイン訪問。150万人の青年とともに20日に「前晩の祈り」を、21日に「閉会ミサ」を司式。閉会ミサの中で、次回第28回WYD(ワールドユースデー)世界大会を2013年にブラジルのリオデジャネイロで開催することを発表。また8月20日、マドリッド、サンタ・マリア・ラ・レアル・デ・ラ・アルムデナ大聖堂で神学生とともにささげたミサの中で、アビラの聖ヨハネ(Juan de Avila 1499/1500-1569年)を近く教会博士と宣言することを発表。
9月22日～25日	ドイツ司牧訪問。ドイツへの訪問は3回目、正式訪問としては初。22日に教皇として初めてドイツ連邦議会で演説。23日にエアフルトの旧聖アウグスチノ会修道院を訪問。同修道院は1505～1511年にマルティン・ルターが修道生活を送った地。同地でエキュメニカル礼拝を主宰。
9月28日	教皇自発教令Quaerit semper(2011年8月30日付)を發布。使徒憲章Pastor bonusを改正し、「未完成の認証婚免除のゆるし(教会法1697条以下)の手続きと司祭叙階無効宣言の訴訟(教会法1708条以下)に関する機能を典礼秘跡省から控訴院に新設される新しい機関に移行させるもの。自発教令の規定は10月1日のオッセルバトーレ・ロマーノでの告示により有効となる。
10月16日	教皇庁新福音化推進評議会主催の第1回国際会議閉会ミサ説教の中で、2012年10月11日(第二バチカン公会議開幕50周年)から2013年11月24日の王であるキリストの祭日まで「信仰年」を開催することを発表。なお、サンピエトロ大聖堂で行われたこのミサの入堂行列の際、初めて可動式演台を使用。可動式演台はヨハネ・パウロ二世が導入したもの。15日、教皇庁広報部のフェデリコ・ロンバルディ報道官は、これが教皇の負担を軽減するためのもので、野外やサンピエトロ広場で「パパモビル」を使用するのとは変わらないと説明。

10月17日	自発教令『信仰の門——「信仰年」開催の告示(2011年10月11日付)』発布。
10月27日	教皇ヨハネ・パウロ二世が1986年10月27日に初めて世界平和祈禱集会を開催してから25周年を記念して、アッシジで「世界平和と正義のための考察、対話、祈りの日」を開催。テーマは「真理への巡礼者、平和の巡礼者」。非信仰者の代表4名を含む300名が参加。
11月18日～20日	ベナン司牧訪問。ベナン宣教開始150周年を記念し、第2回アフリカ特別シノドス(2009年10月)を受けた使徒的勧告『アフリカの使命』(Africae munus)を署名(11月19日)、発布(11月20日)。
12月5日	聖座が国際移住機関(IOM)に正式加盟。
<b>2012年</b>	
2月18日	22名の枢機卿を叙任。枢機卿総数213名、うち教皇選挙権を有する80歳未満の枢機卿は125名となる。ベネディクト十六世による枢機卿の叙任は2006年3月24日、2007年11月24日、2010年11月20日に続いてこれで4回目。
3月23日～29日	メキシコとキューバを司牧訪問。イタリア国外司牧訪問はこれで24回目。3月28日午後、フィデル・カストロ前国家評議会議長(1926年-)と会見。カストロ前議長は1996年にバチカンで、1998年にキューバで前教皇ヨハネ・パウロ二世と会見している。
4月16日	85歳の誕生日を祝う。
4月19日	在位7周年を祝う。在位7周年を記念して、この日、聖座ウェブサイト( <a href="http://www.vatican.va/">http://www.vatican.va/</a> )に新たにwidget Vatican.vaを開設。ユーザー登録すると聖座ウェブサイトの更新内容が自動的に配信される。
4月23日～25日	第5回中国のカトリック教会の生活のための会議開催(バチカン)。これまでの会議が神学生、司祭、奉獻生活者の養成をテーマとしたのに対し、今回の会議は、中国のカトリック共同体の状況と「司祭年」(2012年10月11日～2013年11月24日)を背景とした信徒の養成を検討。司祭・奉獻生活者・神学生の養成プログラムの実施状況、教会と社会の善益のために中国のカトリック信者が奉仕するために適切な準備として何がさらに必要かも検討された。
4月25日	教皇庁国務省、メディアへの聖座情報漏洩を正式に調査する枢機卿委員会の設置を発表。教皇ベネディクト十六世は同委員会委員長として教皇庁法文評議会名誉議長のフリアン・エランツ枢機卿(82歳)を、委員として教皇庁福音宣教省名誉長官のジョゼフ・トムコ枢機卿(88歳)とパレルモ名誉大司教のサルヴァトーレ・デ・ジョルジ枢機卿(81歳)を任命。第1回会議は4月24日に開催。聖座の文書漏洩に関しては2012年2月14日、教皇庁広報部フェデリコ・ロンバルディ報道官が声明を発表していた。
5月26日	バチカン居住地区の内部文書を不法所持していた容疑で、教皇の私的補佐官を務めていたパオロ・ガブリエレ(Paolo Gabriele 46歳)が5月23日に逮捕されたことを教皇庁広報部のフェデリコ・ロンバルディ報道官が発表。
5月27日	「アレルヤの祈り」の前に述べたことばの中で、10月7日の世界代表司教会議(シノドス)開催時に、アビラの聖ヨハネ(Juan de Avila 1499/1500-1569年)とビンゲンの聖ヒルデガルト(Hildegard von Bingen; Hildegardis Bingensis 1098-1179年)を教会博士として宣言することを発表。
6月1日～3日	第7回世界家庭大会(5月30日～6月3日)参加のためにミラノを訪問。世界家庭大会は第1回がローマで開催され(1994年)、以後、第2回(1997年、ブラジル、リオデジャネイロ)、第3回(2000年、ローマ)、第4回(2003年、マニラ)、第5回(2006年、スペイン、バレンシア)、第6回(2009年、メキシコ・シティ)が開催されてきた。第7回大会にあたり、教皇は5月26日に免償教令を発布した。6月3日の閉会ミサで、第8回大会を2015年に米国フィラデルフィアで開催することを発表した。
6月24日	教皇庁広報部が、新設された教皇庁国務省広報アドバイザーとして、グレゴリー・バーク氏(Gregory Burke 52歳)を任命したことを発表。
6月26日	5月29日にマグニチュード5.8地震の被害に遭ったエミリア・ロマーニャ州のモデナを慰問。この地震では24名が死亡した。同日、教皇庁教理省エクレジア・デイ委員会副委員長として、教皇庁典礼秘跡省局長のオーガスティン・ディ・ノイア大司教を任命。
7月10日	聖座が、7月6日(金)に中国、黒竜江省ハルビンで教皇の命令なしに司教叙階を受けたヨセフ岳福生(ユエ・フシェン)神父が教会法第1382条に基づき伴事的破門制裁を受けることを発表。
8月3日	比叡山宗教サミット25周年に際して半田孝淳天台座主あてにメッセージを送付。
8月22日	カステル・ガンドルフォ教皇公邸で行われた一般謁見に、福島県南相馬市を拠点に活動する女子中高生による合唱団「MJCアンサンブル」が参加、歌声を披露。
9月14日～16日	世界代表司教会議(シノドス)中東のための特別総会(2010年10月)を受けたシノドス後の使徒的勧告『中東における教会』(Ecclesia in Medio Oriente 2012年9月14日)発布のためにレバノンを訪問。
9月28日	2010年に創立された「ヨゼフ・ラッツィンガー／ベネディクト十六世バチカン基金」による第2回ラッツィンガー賞をレミ・ブラグ(Rémi Brague 1947年生まれ)とブライアン・E・ダリー(Brian E. Daley)の2氏に授与することを発表。授賞式は10月20日に開催。
10月6日	聖座内部情報漏洩(窃盗)の罪で起訴されていたパオロ・ガブリエレ氏に対し、バチカン市国裁判所が禁固1年6か月の判決を下す。公判は9月28日に開始、4回で結審し、禁固3年が求刑されていた。その後、控訴が行われなかったため、10月25日に判決が確定、ガブリエレ受刑者は同日中にバチカン市国刑務所に収監された。
10月7日～28日	世界代表司教会(シノドス)第13回通常総会開催。テーマは「キリスト教信仰を伝えるための新しい福音宣教」。10月7日の開会ミサでアビラのヨハネ(Juan de Avila 1499/1500-1569年)とビンゲンのヒルデガルト(Hildegard von Bingen; Hildegardis Bingensis 1098-1179年)を教会博士に宣言。
10月10日	一般謁見の中で初めてアラビア語で次のあいさつを行う。「教皇はアラビア語を話すすべてのかたがたのために祈ります。神が皆様を祝福してくださいように。」
10月11日	「信仰年」開幕ミサを司式。ミサにはバルトロマイー世・コンスタンチノーブル世界総主教とR・ウィリアムズ・カンタベリー大主教・世界聖公会主座主教も陪席し、バルトロマイー世があいさつを行う。
10月17日	一般謁見で「信仰」に関する新しい連続講話を開始。
10月27日	シノドス「提言」発表の際のあいさつで、神学校教育の所管を教育省から聖職者省へ、カテケーシスの所管を聖職者から新福音化推進評議会に移管することを決定したと発表。
同日	岡田武夫東京大司教を教皇庁諸宗教対話評議会委員に、菊地功新潟司教を教皇庁開発援助促進評議会委員に任命。
11月4日	一般謁見の中で、シリア情勢について呼びかける。シノドスの中で計画されたシノドス教父のシリア・ダマスカス派遣が中止になったのを受けて、教皇庁開発援助促進評議会議長のロベール・サラ枢機卿を11月4日から10日までレバノンに派遣し、現地のカトリック支援組織の会議を主宰させることを発表。教皇庁広報部は、シノドス中に集められた献金100万ドル(約7995万円)がシリア支援のために寄付されることを発表。

11月9日	教皇庁広報部、教皇ベネディクト十六世が年内に定期的にツイート配信を行う予定であることを発表。
11月10日	聖座情報漏洩にかかわったコンピューター技師のクラウディオ・スキアルペレッティ(Claudio Sciarpelletti 48歳)に対する公判(11月5日開始)が結審、禁固2か月、執行猶予5年の判決が言い渡される。
11月10日	自発教令『ラティナ・リングア』(Latina Lingua 2012年11月10日付)をもって、教皇庁ラテン語アカデミー(Pontificia Academia Latinitatis)を設立。同日、同アカデミー会長にイヴァノ・ディオニジ(Ivano Dionigi)教授を、局長にロベルト・スパタロ師(Roberto Spataro サレジオ修道会)を任命。
11月20日	『ナザレのイエス』第3巻の『イエスの幼年時代』刊行。これで『ナザレのイエス』3部作が完結(第1巻は2006年、第2巻は2011年に刊行)。
11月24日	6名の新枢機卿を叙任。枢機卿総数211名、うち教皇選挙権を有する80歳未満の枢機卿は120名となる。ベネディクト十六世による枢機卿の叙任は2006年3月24日、2007年11月24日、2010年11月20日、2012年2月18日に続いてこれで5回目。
12月1日	自発教令『インティマ・エクレジエ・ナトゥーラ——愛の奉仕について』(Intima Ecclesiae natura 2012年11月11日付)を公布。教会の愛の奉仕活動の法的枠組みを示す。
12月3日	教皇のツイート開始に関する記者発表が行われ、クラウディオ・マリア・チェツリ教皇庁広報評議会議長らが出席。教皇の公式ハンドルは@pontifex、ツイートは今後寄せられる世界からの信仰に関する質問に答える形で12月12日のグアダルペの聖母の祝日の一般謁見から開始されること、英語のほか計8か国の言語がツイートで使用できることが明らかにされた。
12月12日	パウロ六世ホールで行われた水曜一般謁見の終わりに、タブレット端末を用いて、公式ハンドル@pontifexによる初めてのツイートを行う。「親愛なる友人の皆様。ツイッターを通して皆様に触れられることをうれしく思います。皆様の寛大な応答に感謝します。心から皆様を祝福します」。ツイートは英語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ドイツ語、ポーランド語、アラビア語、フランス語の8言語で行われた。英語以外のアカウントは@Pontifex_it; @Pontifex_es; @Pontifex_pt; @Pontifex_de; @Pontifex_pl; @Pontifex_ar; @Pontifex_fr。その後、次の回答をツイッターで行った。「質問 どうすれば日常生活の中で『信仰年』をもっとよく過ごすことができるでしょうか。——教皇 祈りの中でイエスと語ってください。福音の中でイエスが何をあなたに語っておられるかに耳を傾け、困っている人々の中にイエスを見いだしてください。——質問 希望のない世界の中でどうすればイエスへの信仰を生きることができるでしょうか。——教皇 わたしたちは信じる者が独りきりでないことを確信しています。神は堅固な岩です。わたしたちはこの岩の上に生活を築くことができます。そして神の愛はつねに忠実です。——質問 仕事、家庭、世界の要求で忙しいときに、よく祈るにはどうすればよいでしょうか。——教皇 自分の行いをすべて主にささげてください。日常生活のあらゆる状況の中で主の助けを求めてください。主がいつもあなたのそばにいてくださいます」。
12月20日	教皇パウロ六世(ジョヴァンニ・バッティスタ・モンティニ。1897-1978年、教皇在位1963-没年)を尊者とする教皇庁列聖省教令発布を認可。
同日	英国の経済誌『フィナンシャルタイムズ』の要請に応じ、同日付の同誌に記事「キリスト信者が世にかかわる時」を寄稿。
12月22日	教皇、聖座情報漏洩の罪で10月25日からバチカン市国内で服役中のパオロ・ガブリエレ受刑者を訪問、恩赦と釈放を決定したことを直接伝える。
<b>2013年</b>	
1月4日	教皇公邸管理部が、ベネディクト十六世の教皇就任以来2012年末までのバチカンおよびカステル・ガンドルフォ教皇公邸で行われた教皇謁見(一般謁見と個別謁見)、典礼、「お告げの祈り」の参加者数が20,544,970人であったことを発表。2012年度中の参加者数は、合計2,351,200人。一般謁見447,000人、個別謁見146,800人、典礼501,400人、「お告げの祈り」1,256,000人。
1月22日	グエン・フー・チョン・ベトナム共産党書記長と会見。ベトナム共産党書記長が教皇・教皇庁国務省長官と会見するのはこれが初めて。
2月11日	通常枢機卿会議で2月28日午後8時をもって辞任することを表明。
2月22日	2011年7月に独立した南スーダン共和国と聖座が国交樹立したことを発表。
2月25日	メディアへの聖座情報漏洩を正式に調査する枢機卿委員会の委員長のフリアン・エランツ枢機卿、委員のジョゼフ・トムコ枢機卿、サルヴァトーレ・デ・ジョルジ枢機卿と会見。ベネディクト十六世は、教皇のみが知っている委員会の報告の内容は次の教皇のみが用いることができることを決定。
同日	自発教令『ノルマス・ノンヌラス——ローマ教皇選挙に関するいくつかの規則の変更について(2013年2月22日)』(Normas nonnullas)を公布。